コンビニ機能はほんの一部分

ミニストップが仕掛ける オフィスの新しい交流空間

毎日、できたてのお弁当が並ぶコーナー。チェーン店の牛丼なども、並ばず買えるのがうれしい

オフィスの一角にコンビニエンスストアが入っている――そう珍しくもない風景だ。しかしよく見ると品ぞろえがかなりユニークで、おや、と思わせる。ミニストップが展開する、コンビニやカフェの機能を超えて社員の満足度に貢献し、企業の価値そのものを向上させる試みとは。

ミニストップ株式会社
cisca部　部長
今井潤一さん（右）

東京きらぼしフィナンシャルグループ
経営企画部 バックオフィスサービスチーム チームリーダー
兼　事業戦略部 戦略企画チーム シニアマネージャー
岡村　豊さん（左）

企業内コンビニを超えた社員満足を生む場

ミニストップ株式会社は昨年秋、オフィス立地に展開していたブランド「c-isca（シスカ）」の戦略を転換し、出店の対象を路面から企業内へと移した。c-isca部の今井潤一さんが、これまでの経緯を語る。

「c-iscaは、健康とおいしさにこだわり、オーガニックや専門店の商品をそろえたコンビニエンスストアとカフェ、夜は『ちょい飲み』できるバル機能も備えた新しいフォーマットとして、二〇一四年に第一号店を開店しました。昨年春にこのc-iscaをある企業のオフィス内にオープンしたところ、大きな発見がありました。生ビールやハイボールのサーバーを設置し、ケータリング機能を加えたことで、就業後のちょい飲みが増えて社内のコミュニケーションの活性化につながったと、非常に良い評価をいただいたのです。これを機に、企業内のフリースペースへの出店へと大きく戦略を見直しました」

コンビニ、カフェ、ちょい飲みなどはそれぞれ、c-iscaの一部分にすぎない。総合的なミッションは「企業で働く人々の満足度を高め、企業価値の向上に貢献する」ことにあり、実際に店舗を見学すると、その意味がよくわかる。

コンビニとカフェとバル多様なシーンに活用できる

二〇二〇年七月、南青山の本店にc-iscaをオープンさせたばかりの、きらぼし銀行を訪ねた。棚を見ると、品ぞろえがどのコンビニと比べても少し変わっている。

「店舗は一つひとつ、総務・人事のご担当者と一緒に創っていきます。ですから仕入れる商品も、社員のみなさんの要望にできるだけ応えて企業ごとに変えていきます。地元の限定商品が入るケースもあります。お弁当も、いわゆるコンビニ弁当だけでなく、複数の宅配弁当業者からお弁当を仕入れていて、大変好評です。『一緒に創る』というコンセプトを象徴しているのが、各企業に好きに付けていただく店名です。c-iscaという名前には全然、こだわっていません。きらぼし銀行さんでは『Kic Space Café』と名付けられました」

コンビニ機能があるので、ランチどきだけでなく就業時間内はいつでも気軽にコーヒーブレイクや買い物ができる。夕方五時半以降にはアルコールも提供される。ビールサーバーが設置され、社内飲みが楽しめるのだ。また、ミニストップは国内最大級の流通を担うイオングループに属しているため、同グループが提供するケータリングや催事・イベントの一括アウトソーシング、エンターテインメント優待、終活サービスなど、幅広いビジネスサポートと福利厚生が副次的に利用できるのも魅力的だ。

「企業内のコワーキングスペースや休憩室が、社内打ち合わせや商談、ちょい飲み懇親会の場になるわけです。こうしたオフィスの多様なシチュエーションに応えられる空間づくりを、一元的に請け負うのがc-iscaのビジネスなのです」

サービスはそれぞれが独立したユニットであり、就業者数やスペースによって自由に組み合わせができる。無人コンビニ、セルフカフェといった簡易なパターンも可能なので、事業規模にかかわらず導入しやすい。

オフィスの付加価値が上がりここから人がつながっていく

きらぼし銀行では以前はランチのみ弁当を搬入して販売していたが、種類が少ないという社内の声を反映し、社員満足度を向上するべくc-iscaの導入を決めたという。経営企画部の岡村豊さんは今、大きな効果を感じている。

「事前に、導入している他企業を見学させていただきましたが、『自社でもこういうスペースができるといいな』と思わせるものでした。オープンして半月ですが、大いに盛り上がっています。弁当だけでランチどきには二〇種類ほどが並び、さらにコンビニ機能もあってキラキラした空間になりました。みんな、喜んでいますよ」

想定以上だったのが、就業後のちょい飲み交流だ。With コロナのステージで街飲みは気が引けるが、社内であればリスクを軽減できる。それを楽しみに、仕事にもメリハリがついているようだ。

「新しい空間で交流の輪が着実に広がっているのを感じます。今は社員だけを対象としていますが、本店の一階には会員制のコワーキングスペースがあります。いずれ人を集めてセミナーが開催できる状況になったら、このカフェでセミナー後の名刺交換会をしてもいいですね。このスペースの名前である『Kic（Kiraboshi Connect）Space Café』には、きらぼし銀行で人や機会がつながっていくように、との願いが込められています」

Withコロナに合わせ、テーブル席にはアクリル板で仕切りを設けた。コミュニケーションを保ちつつ、安全に配慮する

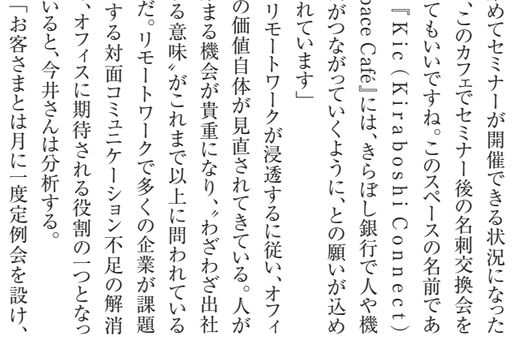
リモートワークが浸透するに従い、オフィスの価値自体が見直されてきている。人が集まる機会が貴重になり、〝わざわざ出社する意味〟がこれまで以上に問われているのだ。リモートワークで多くの企業が課題とする対面コミュニケーション不足の解消も、オフィスに期待される役割の一つとなっていると、今井さんは分析する。

「お客さまとは月に一度定例会を設け、売り上げの確認や仕入れ商品の要望などを話し合いますが、その際にコミュニケーションの機会になるようなアイデアをどんどん提案していきたいですね。他社ではラグビーのワールドカップのパブリックビューイングを実施した事例もあるんです。

また、今新しい取り組みとしてデザイン会社や家具メーカーと共同プロジェクトを立ち上げており、c-iscaを導入するお客さまの課題に合わせて、空間デザインまで一括して請け負うことも可能です。テーブル間隔やパーテーションの設置など、コロナ対策に関しても、お客さま基準に合わせて実施します」（今井さん）

ミニストップの新しいオフィス内カフェ事業は、走り出したばかりだ。今はサービスの枠を決めず、お客さまとともにおもしろいことをいろいろと試していきたい、と今井さんはいう。

c-iscaは二三か月でスピーディーにコンバージョンできるのも特長の一つ。テレワークの推進により生まれたオフィスのフリースペースの有効活用策として、魅力的な選択肢になるのではないだろうか。



「昼どきにしか開かない食堂」とは違い、就業時間内は打ち合わせや社内会議、懇親会など、フルに活用できる

＼ 詳しくは ／

URL：https://www.cisca.jp

お問い合わせ先
ミニストップ株式会社
cisca事務局：cisca@ministop.co.jp

※現在は出店エリアを東京23区内に限定しています